

♪ 2022年度 **poco a poco** ♪

Nr. 22 2023年1月23日(月)

文責:プファイル・辰巳

## ドイツの冬らしく・・・

年が明けて以来雨は多いものの、暖かなお天気が続いていましたが、先週はぐっと冷え込みが厳しくなりましたね。ピンツと空気が張り詰めたような寒さは、ドイツらしいなと思うのは私だけでしょうか。さてさて、この寒さはいつまで続くのやら。寒くなっても音楽室の換気はしっかりしたいと思っていますので、上着やひざ掛けなど、寒さ対策をした上で、音楽室に来てくださいね。



## 音楽鑑賞会(2月2日)についてお願い

- ・保護者の皆様からの申し込みを受け付けています。なお締め切りは、1月30日(月)とさせていただきます。
- ・保護者の皆様からの申し込みがあった場合は、確認のためチケットをお渡ししています。当日受け付けてお出してください。
- ・未就学児のお子さまについては、席は用意しませんので、保護者の膝の上で、静かに鑑賞させてください。プロの演奏会ですので、静かに聞けない場合は、ご配慮をお願いします。
- ・プログラムは当日用意いたします。



音楽こぼれ話 <その時、作曲家は・・・ ⑬

## 宮城道雄作曲「春の海」>

「春の海」は箏と尺八で演奏される宮城道雄の代表作で、小学校5年生の鑑賞教材として教科書にも掲載されています。「日本のお正月」や「日本食レストランのイメージ」というのが、子どもたちの第一印象です。

作曲をした宮城道雄は、1894年(明治27年)兵庫県に生まれた箏曲演奏家であり作曲家でもありました。また、十七絃という大型の箏(普通は十三絃)の開発者としても知られています。

幼児時代に眼病を患い、7歳で失明してしまった道雄少年は、それをきっかけに音楽の道を目指すようになり、箏曲生田流に入門しました。14歳ごろからは作曲も始めたそうです。

「春の海」が発表されたのは1929年ということですから、宮城道雄35歳の頃です。先述の通り、箏と尺八のために作曲されたのですが、当時来日していたフランス人ヴァイオリニスト、ルネ・シュメーが尺八のパートを担当し、宮城道雄の箏と共演した演奏が、世界的に評価されました。これをきっかけに、宮城道雄の知名度もぐんと上がり、1930年からは東京音楽学校の講師に迎えられることになりました。7年後には教授に昇進しています。

「春の海」は新年の歌会始のために作曲されたそうです。イメージされている海は瀬戸内海です。内海ですから穏やかな波でしょうか。その波の音に、海鳥の鳴き声や両氏の舟歌などを模した音が重なっていきます。

第2次世界大戦の戦火をかいくぐり、宮城道雄は戦後も演奏家として活躍しました。1953年にはフランスやスペインなどでも演奏会に出演し、日本の音楽や楽器の音色を世界に広めました。残念ながら1956年(昭和31年)、夜行列車のデッキから転落するという不慮の事故が元でこの世を去りました。

1978年には、日本人の音楽家としては初の「宮城道雄記念館」が、東京都新宿区中町に設立されたそうです。

